

食の6次産業化プロデューサーの教育研修機関を目指す企業の紹介

食Pro.育成研修で地域産業の活性化に貢献できる人材を育成

株式会社 I&C・HosBizセンター

1 会社概要

株式会社I&C・HosBizセンターは、中小企業診断士、商業流通コンサル、経営士、社会保険労務士・税理士・会計士、知財コンサル、IT・FP・デザイナーなど25名が参画して、運営している経営支援家ファームである。

住所 〒113-0021

東京都文京区本駒込5-21-5正太駒込1202

TEL 03-5832-9403

FAX 03-5832-9404

資本金 1,220万円

業種 経営コンサルタント業

事業内容

- ① 中小企業の経営計画の策定、商品開発、販路開拓、組織改革・取締役会・経営会議等への参画とアドバイスおよび部門別管理会計の設計・予算管理等の導入指導、支援
- ② 異業種交流会を定期的に開催し、経営者と支援家とのビジネスマッチング・ビジネスモデル発表会等の場をつくり、双方のビジネスチャンス発掘の機会を創出
- ③ 経営、営業改善に向けての、各種業界向け・階層別の研修会を開催
- ④ 一般社団法人経営特訓士協会を運営して『ボード型マネジメントゲーム・経営特訓ゲーム』を開発し、商品開発、販路開拓、管理会計、工場管理、生産管理、販売管理、購買管理、在庫管理、会計システム等の研修システムを実務的に改良して開催し、資格認定制度を設けている

今回、同センターを訪問して、代表の平本 靖夫氏に『食の6次産業化プロデューサー育成研修機関』を目指す事業の狙いと、支援システムを伺った。

平本靖夫氏は、食Pro. 段位認定制度の内容に強い関心と賛意を示し、同センターが推進する、支援・研修の仕組みを、『食の6次産業化プロデューサー育成研修』に活かしたいと考えている。

今後、研修機関として積極的に参加し、食の6次産業化プロデューサー育成に取り組んで行きたいとの意向を語ってくれた。



代表 平本 靖夫氏

コンサルタント実績、43年のキャリアがあり、今まで、330社の支援を行い、経営計画策定運動のパイオニアの一人と言われている。著書も数多く執筆しており、研修講師の経験も豊富で人脈も広く持たれている。著書に「非常時の経営計画の作り方」「経営計画実践教本」「理念経営のすすめ方」「もっと良い会社 にする経営手順の本」などがある。



著書事例（抜粋）

2 株式会社I&C・HosBizセンターの取り組み

(1) ローコスト体制の支援システムの推進

同センターは医療業界での、地域医療における『患者とかかりつけ医と地域医療センターの機能』と遠隔から『教授や専門医が治療や手術を指導サポートする機能』をイメージして支援システムを設計開発している。

同センターは、クラウド型のネットワークを活用し、経営支援メソッドをテンプレート化して精度を向上させることによって、権威のある専門家が移動する時間と交通費、宿泊費を節約し、経営支援のローコスト運営を可能にする仕組みづくりに力を入れている。

このシステムの特徴は、クラウド型のネットワークを活用した支援なので、同センターに所属する、各専門家のオーソリティーから、事例をもとに指導・アドバイスが直接受けられるというものだ。

従って、中小企業経営者は、効率よく、広い実務的知識が得られる。専門家を目指す一般の経営支援家も高度な支援ノウハウが身に付き、問題解決スキルが高まるそうだ。

これらの支援ネットワークを活用することで、企業経営者と経営支援家の持っている情報をマッチングさせ新しいビジネス領域を開拓することが可能である。

TV会議やWEBを使って遠隔地対話方式を取り入れているので、現場の問題解決能力を体得していただくことに力を入れている。

クラウド機能が安価で高性能になり、ネットワーク型経営支援が可能なインフラが整いつつあると判断して、このシステム開発、普及に努めているとのことだ。

これらのノウハウを取り入れながら今年度より、『食の6次産業化プロデューサー育成研修機関』を目指す準備を整えていきたいとのことである。



異業種交流会



情報交換定例会

3 経営特訓士協会と連携した研修・資格認定制度

一般社団法人経営特訓士協会は、経営会計の普及を目的として運営している資格認定機関である。経営特訓コーディネーター、経営特訓士の認定講座の他、経営会計を中心とした研修会を開催している。



各種の研修会



認定研修会

株式会社 I&C・HosBizセンター

研修で活用する、経営特くんゲームは、『ボード型のマネジメントゲーム』で、人生ゲームのように楽しみながら、経営会計3表の資金繰り表・貸借対照表・損益計算表の読み方や、実際の経営現場に役立つ経営力を学習できる。中小企業を支援する研修機関や各士業向けに、経営をゲームで疑似体験しながら楽しく学んでいただける。



『ボード型のマネジメントゲーム』ツール

現在、経営の現場では経営計画や部門別管理会計を中小企業経営者や経営支援家に座学研修で教えるだけでは理解できる人が少なくなっているため、ゲーム感覚で「経営」を体得できる『ボード型マネジメントゲーム・経営特くんゲーム』を開発して、実務に役立つ資金繰り表・貸借対照表・損益計算書が作れ、読めて活用できるようにする研修を進めている。

更に、マーケティングや商品開発、商業流通、販路開拓などの実践指導の専門家を育成するノウハウも取り入れるべく準備を進めているとのことである。



経営特訓ゲーム研修

4 食Pro.段位認定制度に期待すること

平本靖夫氏は、2015年に日本経済団体連合会より発表された政策提言の中で、「農業経営を担う人材育成の強化対策」として「食の6次産業化プロデューサー」の普及促進が述べられている点を重視し、その取り組みを高く評価している。

掲載された内容を要約すると、「農業の成長産業化の基盤は人材に他ならず、農業に関する専門的な知識に加え、経営を担える人材の育成が不可欠である。公的教育機関や民間研修機関等において、農業経営に関する教育が行われているものの、関係機関が相互に連携した人材育成に取り組んでいるとは言い難い状況にある。

まずは、国として目指すべき人材像を明確にした上で、初等教育における農業体験の拡充、農業高校・大学等における農業経営や6次産業化に関する教育の強化を図るとともに、体系的かつ一貫性のある教育体制を構築すべきである。(中略)

また、6次産業化をより実効性の高いものとする上で、川上から川下にいたるまで、企画・調整に取り組める人材が求められている。この点、2012年度より国家認定制度に基づく資格である「食の6次産業化プロデューサー」の認定制度が開始されており、同制度の普及を促進することも一案である。」と明記されている。

5 「食Pro.育成研修機関」取り組みに向けての抱負

グローバル化と構造変化の波が、日本市場に大きな影響を与えている中で、国内の農産物・食品市場は需要が縮小するものの、海外市場はアジアを中心に拡大し続けることが予測される。

少子高齢化、環境問題、食料自給率向上、エネルギー資源、経済合理性等を追求することで対策のヒントが見えてくる。日本の中小企業や農林漁業者は、優れたシーズ、加工技術は有るものの、モノづくりや販売戦略、ノウハウ等の事業化支援を推進する実践専門家が十分育っていないのが現状だ。

農林漁業者も①マーケティング力不足、②資金不足、③人材不足を抱えている。マーケティング力に乏しい事業主や農業者が、開発・製造した売れない製品が市場に投入されてしまうケースは後を絶たない。

多様化する消費者ニーズや海外需要に対応するとともに、生産から物流、加工、販売にいたるバリューチェーンを構築し、高付加価値化を図っていくことが急がれる。

6 地域産業の活性化に貢献できる人材の育成を図る

平本靖夫氏が「食Pro. 段位認定制度」に関心を持ったきっかけは、普段から連携して一緒に活動している、株式会社システムプランニング 代表取締役で、経営支援17年のキャリアをもつ、当職・鈴木栄治がレベル4に認定されたことが刺激になったと述べている。

当職は、同センターの経営にも関わっており、「食の6次産業化プロデューサー」という段位認定制度の考え方や狙い、仕組みなどを、平本靖夫氏に説明し、普段から、理解していただいている。

当職は、大手流通業にてバイヤー、食品開発部長を歴任し、多くのPB開発に関わり[売][買]両面に精通している。今では、27都道府県の認定専門家として、全国から支援依頼を受けて活動しており、他の食Pro. 研修機関の講師も請け負って、多くの食Pro. 段位認定者の輩出に貢献している。

今後、同センターとの連携体制で、食Pro. 研修の講師陣を育成、組織化して、レベル3、レベル4の認定取得を啓発して行きたいと考えている。

食の6次産業化プロデューサーはこれからの農業経営のあり方を熟知した地域密着型支援とマーケティング、販路開拓支援をネットワーク出来る技量と知識が求められる。そして、案件の発掘から専門的なアドバイスを担う役割は大変重要と考えている。

現在の農産業の課題は、①マーケティング力、②資金確保、③人材育成、④情報収集力にある。特にマーケティング、IT知識、営業体制が十分整っていない生産法人も多く、6次産業化に踏み込めないケースが目立つ。

このような環境において、流通業界で培った経験、知識、人脈、販売チャネルをネットワーク出来る強みを発揮して、実践経験を武器に多くの受講生がレベル3やレベル4に挑戦したくなるような食Pro. 育成研修機関を目指したいと思っている。

株式会社I&C・HosBizセンターの平本靖夫氏は、レベル4認定者の当職と連携して、全国ネットで食品産業を支える人材を育てていきたいと熱く語ってくれた。このセンターに所属する専門家達も「食Pro. 段位認定制度」に興味を示しており、レベル4への挑戦意思をもっている。

平本靖夫氏は6次産業化、農商工連携が地域経済の活性化の起爆剤となるためには、農業と食品産業、観光産業等との連携強化は重要で、特に2020年の東京オリンピック・パラリンピックは外国人旅行者を誘致する絶好の機会と考えている。そのためにも、食の6次産業化プロデューサー育成と段位認定制度の推進は重要と考えている。

また、研修機関の役割だけでなく、レベル3、レベル4認定者の多くの活躍も期待出来るので、「食Pro. 段位認定制度」に使命感をもって、取り組んでいきたいと熱心に語っていただいた。



株式会社I&C・HosBizセンター

〒113-0021 東京都文京区本駒込5-21-5

正太駒込 1202

<http://www.hosbiz.net/>

平成27年3月18日

執筆：株式会社 システムプランニング

代表取締役 鈴木 栄治

(食の6次産業化プロデューサー レベル4)

〒355-0017 埼玉県東松山市松葉町 2-11-27

TEL (0493) 23-7880 FAX (0493) 23-7875

<http://www.spsystem.jp/>

eijisuzuki@spsystem.jp

